

2024年2月15日

日本内視鏡外科学会技術認定合格者調査
—7年間の調査結果から考える本邦 TAPP の現在地—

◆研究の目的と概要◆

我々は本邦の腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術手術の基本・潮流を知り、より安全な手技を追求すべく、2016年度技術認定合格者に対してアンケート調査を開始し、現在まで7年間に渡り継続して調査をしてきました。合格者の背景や実際の手術手技そのものについて長期にわたり調査した報告は、他領域を含め認められません。今回我々は、2016年度(第13回)から2022年度(第19回)までの7年間の調査結果を報告し、ヘルニア領域における腹腔鏡手術手技の変化について文献的考察を含めて報告します。

◆対象となる方◆

2016年度から2022年度までの日本内視鏡外科学会技術認定ヘルニア領域の合格者

◆研究に使用される情報◆

卒業年度、受験回数、合格者の経験症例数、手術方法、手術時間、使用機材、使用メッシュ、使用タッカー、手術した病変の分類(JHS分類)、アプローチ方法、ポート配置、ガーゼ剥離使用の有無、合格までのヘルニア手術症例数、受験回数、日本ヘルニア学会所属の有無、合格にあたり効果的な練習方法

◆情報の研究利用開始日◆

2024年4月1日以降

◆研究方法◆

2016年度から2022年度まで、ヘルニア領域内視鏡技術認定合格者全員に各施設のホームページなどを参考に郵送法にてアンケートを実施してきました。今回経年変化を後方視的に検討するにあたり、アンケートに協力いただいた各医師に改めて連絡をとり、再集計の許可をいただいたアンケート結果のみを解析対象とし合格者の背景と手技の変化について分析します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

外科 研究責任者 江口 翔太

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明